

小来川地区内公共施設適正化検討専門部会会議録

件名	第五回小来川地区内公共施設適正化検討専門部会		
日時	令和元年10月7日(月) 18:00~19:10	作成日	2019年10月10日
場所	小来川林業研修センター 2階多目的ルーム	記録者	資産経営課 斎藤
出席者			
<日光市> 小林資産経営課長 資産経営課公共施設マネジメント係職員 高梨小来川地区センター長		<専門部会メンバー> (出席部会員、アドバイザー名簿別紙) (敬称略)	
議事内容			
■配布資料 第五回小来川地区内公共施設適正化検討専門部会 資料1 (提言(案))			
■議事録 1. 開会			
2. 部会長挨拶 「皆さんこんばんは、お仕事の後でお疲れの所かと思いますが、よろしくお願いたします。この専門部会なのですが、日光市では初めての取り組みということで、この後、日光総合会館の検討部会も6月頃から始まっているんですが、小来川が先に進めているという事で、2月の半ばごろから年度を挟んで、更に平成から令和と言うところを経て、2月、3月、4月、5月という事で4回やっていただきました。部会員の皆様には大変ありがとうございます。また、2回3回目ではグループワークという事で、小来川の良さとか、あるいはこれから小来川がどうあるべきかと言うような、なかなか普段では話の出来ない、有意義な話が出来たのではないかと思います。皆さまに感謝申し上げます。本日は、最後の部会になります。提言に向けた資料も出来ているようですので、これにつきまして、中身について事務局がまとめたものですが、皆さまに検討いただいて、提言に向けて進めていきたいと思っております。」			
3. 議事 ○部会長 「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。それでは、(1)小来川地区内公共施設の適正化に向けた提言(案)について事務局より説明願います。」 (1)小来川地区内公共施設の再配置の考え方の整理について 事務局より、資料1を用いて説明。 「資料の説明に入る前に、今後の流れも含め、簡単にご説明いたします。 これまでの4回の会議の中で出されたご意見や施設適正化の考え方などを提言書にまとめ、佐藤部会長から市長に直接手渡していただくことを予定しています。その後、提出された提言書を基に、小来川地区の公共施設の在り方について、市の関係課等により検討を進めていきたいと考えております。 本日の会議は、その提言書について、ご議論をいただきたいと存じます。 それでは、資料の説明をさせていただきます。 資料1をご覧ください。 1枚開いていただきますと、左側に目次としてありますとおり、グループワークで出された意見を受けて、考え方を整理し、小来川地区内公共施設適正化に向けた提言を総括的に行う形で整理いたしました。 それでは、順を追って、概要を説明いたします。 まず、2回実施しましたグループワークの中で出されたご意見を1ページから3ページまでに整理しました。 1ページですが、1回目のグループワークは、「10年後、20年後の小来川地区をもっと良く			

議事内容

するためにはどうすればよいか」というソフト面からアプローチし、小来川地区の強みと弱みを理解した上で、小来川地区をもっと良くするための方策を検討いたしました。そのご意見を「働く場の確保」「施設、環境整備」、2ページになりますが、「小来川地区の魅力の発信」の3点に集約し、記載しております。

また、2回目のグループワークでは、「将来の小来川のまちに向けた公共施設の在り方」というハード面の視点から検討し、そのご意見を「施設の集約、人が集える、交流できる施設」、さらに「地区外から人を呼び込むための施設としての有効活用」という2点に集約いたしました。

4ページをお開きください。

そして、前回の会議の際に、2回のグループワークの中から見えてきた施設の方向性として、まずは、公共施設の機能を集約化するという点、さらには、ハード面で困難なことをソフト面で対応することも可能であることを確認いたしました。

これらを踏まえ、5ページからのように提言をまとめました。

まず、前段として、小来川地区内の公共施設の適正化に当たっては、地区内住民に必要な機能面を中心に再編を検討するとともに、地区外との交流の拠点として活用転換を図ることを念頭に、既存施設の柔軟な利活用を検討してほしい旨、記載した上で、「(1) 公共施設再編の考え方」と6ページの「(2) 交流や地区活性化のための公共施設活用」という2点で提言を整理しました。

ポイントを絞って、少し具体的に説明いたしますと、一つ目の公共施設再編の考え方につきましては、現在、地区内で、用途ごとに分散している施設を可能な範囲で集約する上で、①小来川小中学校を交流拠点の核とすること

②学校への機能集約については、用途上の規制や物理的な許容範囲を整理しながら検討すること

③学校機能を存続する前提で機能の集約化を考えていることから、物理的に集約が難しい機能については、学校以外の施設などへの集約の可能性について検討すること

④学校への機能集約に当たっては、学校機能を第一に考え、子どもたちの安全という点に配慮しつつ、小来川地区の最大の強みである人と人のつながりの深さを活かした世代間交流の拠点施設として学校を位置付けることについて、検討に当たっての参考としてほしい

⑤その際、給食室、図書室、体育館などは様々な世代の人が共用できる可能性があるため、その仕組み等も構築してほしいという、5点にまとめました。

さらに、6ページになりますが、2つ目として、交流や地区活性化のための公共施設活用ということについては、小来川地区の賑わい、活性のためには、地区外との交流の場を作ることが重要であるということをお前提として、

①ふれあいの郷を交流活動の拠点として活用すること

②施設の集約化によって利用しなくなった行政財産を民間が活用することで地区内の経済活動を活性化させることも想定されることから、有効な活用方法を検討すること

③地区外との交流という視点で道の駅など新たな施設整備についての意見も数多くあったが、費用面で実現が困難なものもあるので、発想の転換等により既存施設を最大限活用してほしいと、整理した上で、最後に、④専門部会の意見を踏まえ、小来川地区が活性化するために、公共施設の集約、有効活用について、さらなる検討を進めてほしいと、総括いたしました。

なお、7ページにこれまでの検討経過、8ページには専門部会の名簿を添付してございます。繰り返しになりますが、初めにもお話しいたしましたとおり、今回、提言書としてとりまとめ、佐藤部会長から市長に直接手渡していただくことを予定しています。その後、提出された提言書を基に、小来川地区の公共施設の在り方について、市の関係課等により検討を進めていきたいと考えております。

この点を踏まえ、皆さまからご意見等いただきたいと思っております。」

○部会長

「今事務局より、説明がありました。これからなんです、まずただいま事務局の説明に対してのご質問がございましたらお願いいたします。そして、その後に皆様からの提言内容についてのご意見をいただくという形にしたいと思っておりますので、まずはですね、内容についてご質問、あるいは少しみんなの意見とは違うのではないかと何かあれば出していただきたいと思っております。

全てやるとかなりボリュームありますので、メインは5ページ6ページの部分になりますので、

議事内容

この部分をお目通しいただいてと思います。

どうでしょうか、特に大きな違いみたいな所はないでしょうかね。また後からでも気づいたところがあれば言っていただいて。

それでは、次に進みたいと思います。今度は皆様のご意見と言うことで事務局のまとめた提言に対してですね、方向性とかがおかしいところはないか、あるいはもう少しこう言う文言を入れるべきではないかというものがありましたらお願いしたいと思います。過去4回開催してきた訳ですけれども、グループワークもございまして、意見も交換して参りました。また過去の会議を振り返りますと、グループワークで考えたことが、ここはそれを提言と言う形で落とし込んでいった訳です。考え方に齟齬がないというところで、皆さんからのご意見を求めます。どうでしょうか。あるいはこの提言を出してからの事でも結構ですけれども、その辺も踏まえて、これから市の方でこれを持ち帰って、市長に提出してから、市の方で具体的な施設の検討に入るという風になると思うので、それに向けた意見でも結構ですし、この提言について、もう少しこういう文言を入れたいとか、ここはおかしいと言うようなことがありましたら、お願いしたいと思います。」

○部会員 1

「提言する前に、学校施設の複合化で成功例があると言うことを聞いた部分がありますので、これは、一度見学と言うか、そういった事例のアドバイスの的なものをもらってからでも、提言は遅くないのかなと思っているところですが、いかがでしょうか」

○部会長

「提言を出す前にそういった成功例を見た方が良いのではないかと一言のご意見ですがどうでしょうか。」

○事務局

「視察をと言うお話をいただいたところですが、申し訳ございません、そこまではうちの方も想定していなかったものですから。具体的に県内という所はあまりなかったと思いますし、今日ちょっと具体的な調べはしてこなかったのですが、視察等というところまでは考えていなかったものですから、出来ればこの中でご検討いただくと有難いと思っていますところ。」

○部会長

「事例の話は前回会議の中で出ていた話で、具体的にどこと言うのは示されなかったと言うような記憶があるのですが、それを示していただいた方がやはり良いという事ですよね。」

○西尾アドバイザー

「私も県内の事例は思い当たるものがないのですが、県外でも良いと言うことであれば、ご紹介することはできます。例えば埼玉県内であれば、非常に有名な事例は、志木市の志木小学校の一部建替えのタイミングで公民館と図書館を入れて、その図書館、公民館の運営を市民の方が関わりながらやっていると言う非常にうまく行っていると言われている成功事例もありますので、そういったものを紹介することは出来るかなと思いますけれども、視察で皆さんで行くとなると結構大変かなと思いますので、その辺検討してみて。」

○事務局

「今のお話をお伺いしまして、少し提案なのですが、提言書の中に、そういった成功事例も踏まえた上で、逆に言うと、成功事例も失敗事例も入れた方が良いのかもしれないですけれども、そういった事例を踏まえた上で、施設集約について、より具体的な検討を今後市がしていく形になりますので、具体的な検討をして欲しい旨を記載していただくと言うのはいかがでしょうか。」

○部会長

「いかがでしょうか。」

・・・部会員 1 了承

では、そういったものを盛り込むと言うことで、お願いしたいと思います。」

議事内容

○部会員 2

「前回欠席してしまったので、これまでの3回までの色々検討したことについては、この提言書のなかに、全部盛り込まれているかと思っておりますので、私はこれで良いと思うのですが、後は実際にこの提言書を市の方でどこまで受け入れてくれるかの話なので、そこら辺の所で、後はどれだけ小来川全体として市の方にプレッシャーをかけられるかと、そういう風な話だと思うんですよ。提言はしたけれども、ほとんど無視されたと言う話も多分出てくるのではないかと思いますので。この提言の全部で9項目ですかね、どこまでを受けてもらえるか、部会長の後ろにこれだけの小来川の住民が居るんだよと言うのをつけていかないと、なかなか市の方でもそうですかという訳にはいかないと思うので。提言をまとめた以上はそういったバックアップも含めて色々これからやっていくべきことはあるのではないかと思います。」

○事務局

「色々ご意見いただきましたが、市といたしましては、少なくとも一つ言えるのは、小来川の地区センター・公民館の状況がこのままで果たして良いのかと言うところを考えますと、そこは喫緊の課題の一つだと言う捉え方をしているところでございます。そういった意味では今回皆さま方から頂いた意見というものをベースといたしまして、総括の全体的な論調としましては、学校に機能集約という事と、地区外として、ふれあいの郷を交流の拠点にしましょうと言うところの大きな2点にまとめてございますが、その背景には地区センター・公民館を今後どうしていきましょうと言うところが必ずついて回る話だと思っておりますので、皆さまのご意見をベースに様々な点で検討させていただきたいと思っておりますのでございます。」

○部会長

「私の方からも一つお願いしたいのですが、これだけ地域で話をしてもらっている訳ですので、市の実行の計画が出来た時点で、やはり地元説明というようなものを是非、関心が高いことですので、やっていただきたい。これは提言書に入れるべきかどうかかわからないのですが、そういったことは可能ですかね。」

○事務局

「そちらにつきましては、今回皆さまから多くの意見をいただいたところですので、市として方向性が一つに決まって、こういう形でいかがでしょうかと言う事につきましては、地元の方にご説明、説明会と言う形でフリーで来ていただく形なのか、代表者の方に来て頂く形なのかと言うやり方は少し考えなければならないと思っておりますけれども、何らかの形で説明する機会、お話しする機会と言うのは設けたいとは考えているところです。」

○部会員 3

「一つ、一番最初の一回目の会議の時に、予算関係のこともあろうと思うのでと質問して、予算関係なしで、色々お話ししてくださいと言うことが最初にあったと思うのですが、6枚目の(2)の3にこれらのものは費用面において実現が困難なものも多いと思われると言うことがありますので、多分予算等が出たのかなと思っておりますのですが、実際どれ位の予算が出るのかなと、そこからの方が話が早いのかなと思うのですが、いかがでしょうか。」

○事務局

「具体的な予算と言うのが出ているという事ではなく、これらの施設整備するには億、数十億と言うレベルで、必要なものも、ものによっては出てくるのかなと。市が直接お金を持ち出してやるのは正直難しいと言う風には思っておりますが、今後の市の検討のなかで、どういう検討が具体的に進んで行くかというところにも因りますけれども、例えば、民間の方がご協力いただける、資金面でもご協力いただけるということであれば、こういった機能の中の何かしか実現が可能になってくるものもあり得るのかなというところもございまして、現時点で、市として予算がどうだと言う事で困難と言うことではなくて、現状として市で新たな施設を整備するのに、億、数十億単位のものの金額を出すというのは正直難しいというところで書いたというところです。具体的な金額が出ているとかと言うことではございません。」

議事内容

○部会員 4

「私は正直、小来川と言うこんな小さな場所を取り上げてくれたことに感謝をしたいと思えます。小来川から出て行く人の方が凄く多くて、きっとすぐ皆いなくなってしまうのだろうと正直思っていました。こういう機会をいただいて、自分達が頑張らなくてはいけないんだと凄く思います。市の方にばかり頼るのではなくて、何か出来ることがないのかと言う風に少し考えなくてはいけないのではないかと。小来川の住民が力を合わせて、今から出て行く人の話も色んなところから聞いたりして、少しでも小来川が長く続いていけるように日光市の方に協力してもらいたいなと思えます。

小来川のなかでも何かしらアクションを起こしていかないと、せっかくこの機会をもらったのに、頼ってばかりではいけないと私は思いました。

小来川のみらいをテラス会の方でうちの母も何か出来ることはないかとずっと考えているようなんですけど、テラス会の中だけではなく色んな人がもう少し外から入って来れるような何かしからのものをつくらなくてはいけないのではないかと思いました。」

○部会長

「ご意見と言うことでよろしいですかね。そういう小来川の盛り上がりもあると言うことで、小来川を選んでくれたと言うようなことも先程事務局の方からもお聞きしまして、日光で初めてこういう形での検討を行ったということでもありますので。その他どうでしょうか。」

○部会員 5

「私も今のお話しと同意見なんですけど。私達世代の人達がそういう意見を持っていますから。小来川を出て行ってしまおうとか、出ようとする前にこういう会議が開かれていると言うことも知らない、自分達は自分達の生活ではないですけれども、なかなか考えてくださらない方もいらっしゃるの、私もそこを少し強くおして、意見とさせていただきますと思います。」

○部会員 6

「3回目、4回目と欠席してしまいまして、大変申し訳ございません。1、2回目に続き、最後の会議になってしまって、内容が少し飛んでしまってわからないところもあるのですが、結局小中学校に集約して、その他に、林業研修センターやふれあいの郷は民営化か何かと言う形でやっていくと言うことでとりまとまったのかなと言う感じを受けております。それで、今後は具体的な説明会などが、先程あると聞いたのですが、その時に小来川の人達からそれではだめだとかもっとこうして欲しい、こうやった方が良いのではないかとと言う再度意見が出てしまった場合は対応していただけるのかと言うところをお伺いしたい。」

○事務局

「これからどういう方向になるのかと言う検討になるので、あくまでも想定という事での回答になってしまいますけど、もちろん、市として一つの方向性にしたからそれから変えられないと言うことではないですし、変えられないと言うことでは、説明会の意味がないので、基本的にはこういう考え方でやりたいと思えますと言うご説明をさせていただいて、ものによっては、変えられるもの、変えられないものは当然出てくるかと思えます。例えば莫大なお金がかかるようなものをお願いされても、なかなか難しいという所はあるでしょうし、可能な範囲でその説明会で出たご意見と言うのは、変えることは可能だと言う風には考えているところです。」

○部会員 6

「ありがとうございます。少し安心しました。提言書の6ページの方ですが、私達小来川のみらいをテラス会の代表で来ている訳ですが、私達は小来川の人達のソフト面、これを最大限に鍛ええると言ったら何ですが、もっと強力、自分達が主体となって、日光市、小来川地区を作っていくんだよと言うところを、皆、意識を高めるために一生懸命活動しておるところでございませう。そういった活動の方も、活動が出来るようなと言うような意見も入っておりますので、是非、地元にいる人達の活用がしやすいような条件で、良い言葉が見つからないんですけども、自由に使えると言ったら何なんですけど、気軽に盛り上がり、こういった残る施設を活用出来て、皆で仲良く公共施設を活用できるような形にさせていただきたいという事を一つ思いま

議事内容

したので、どうぞよろしく願いいたします。」

○部会員 7

「提言書の方はだいたい皆さんが出された意見が網羅されているとは思っているのですが、今まで議論された内容がちゃんと網羅されていると思いました。ニューズレターも皆さん回覧とかで読んでくださっていると思うんですが、地域の皆さんでも、色んな意見が出ると思うので、そういった意見もひろっていただければと思います。」

○部会員 8

「質問なのですが、小中学校拠点にして、ふれあいの郷を拠点にしてという風な考えをしていると思うのですが、その近くの場所の田畑とか色んなものがあると思うのですが、ああ言う場所って、色々な縛りがありますよね。農振地域とか、地域の人がこういうことをやりたいと言った時に市の方の縛りとは異なるところはあると思うのですが、市の方で、そういった所を補佐して、素早く許可が出るとか、うまくやってもらえることが出来るのかなど。公共施設にしても、何かを整備するとなった時に、そういった縛りがあるってできないこともある訳ですよ。今は出てないけど、先程話があったような新たな提案、意見があった場合には、この区画は色んな規制があるけれども、市の方で協力してくれて、うまくそういった縛りを外してもらって、地域の人意見が通るようなことが出来るような。何かやるのに、規制を簡単に外してもらえないようなことが出来ないのか。」

○事務局

「明確な答えが言えるかどうか、微妙なところなのですが。仰ってる意味は非常に良くわかります。例えば学校に機能を集約しました。その周辺にこういった施設が欲しいよねと言った時に法規制ですとか、そういった規制の解除というものを速やかに出来て、スムーズな施設整備が可能になってくるのかと。例えば、民間企業の方がそこに新しいものを造りたいとなった時に、その関連のものとして対応出来るのかと言うところかと思えますけれども、この小来川地区内の施設整備のあり方と言う全体的な考え方をベースとして、市がどういう風に受け止めるかという所にも関わってくる部分だと思いますので、今すぐ明快に出来ますと言えない部分もありますが、そこは真摯に受け止めさせていただきまして、丁寧な対応をして参りたいというところで今日のところはご勘弁いただければと思うのですが。」

○部会員 8

「了解しました。」

○部会員 9

「提言については、私からいう事はないのですが、学校としては、地域の協力を得て先日も運動会実施していただいて、大変ありがたく思っています。そういった地域の協力の上に成り立っている学校だと言うのは十分理解しておりますので、その上で、色々なことが進んで行けば良いかなと思っております。」

○部会員 10

「2つありまして、1つは、ふれあいの郷というところで、私は今、ふれあいの郷に居させていただいているので、自分のことのように考えているところなのだが、私の協力隊の任期が2年しかないんで、2年以内にどうにかして欲しいなというところが、一つあります。今だと皆さんが、せっかくふれあいの郷を使っているんだから、こうした方が良いとか、これをやった方が良いとか、こういうことをやったらどうだいと言う提言をいただいて、有難く、その案を行政センターとかに投げて見たりするんですけど、やはり条例の問題であるとか、施設の利用の問題とかでどうしても切られてしまって、今私がやっていることがベストな状態でしかないんで、それをもっと打破できるように、2年以内にやっていただきたいです。あと一つ、最初の時に、10年後、20年後の小来川を良くするためにどうすれば良いかというところで、皆さんから良い案がたくさん出ていて、本当に小来川の方は小来川のことを凄く愛しているというか、小来川って本当に良いところなんだなと思いましたし、やはり、小来川の良い所って皆さん、人が繋がっているという

議事内容

か、絆があるというところだと思うので、ソフト面、先程も他の部会員の方が仰っていたみたいに、ソフト面という所は、ハードではどうにもならなくても、ソフト面で出来ることってあると思っていて、自然をアピールして人を呼ぶですとか、SNSを活用して、小来川のPRできれば、この辺は特に誰にも言われなくても、自分で出来るという事がありますので、そこから、自分達で自発的にやれることなのかなという事があるので、その辺は私も力不足という所があるので、これからやっ行って行こうかなと言うのが一つです。」

○部会員 11

「これから先っていうことで、色々な会合に出て、色々な方法があるとか、インターネットとかで色々な情報を発信できると。例えば前回会議出た時に、空き家がどうかと言う話がありましたよね、その時ネット上に空き家を探している人、移住したい人とかと言う情報が氾濫しているような部分もあるのではないのかなと言う気がして、結構、方法としては色々なことがあるのかなと言う気がしているのですが、やはり、色々な面で、リーダーの人が色々なことを一生懸命やってくれる組織を作っていくか、全体的にまとめていけないのかなと。今回の趣旨の公共施設を集約化するとか、どういう風に使っていったと言うような問題で言えば、パターン1とかパターン2とか、いずれかと言う結論は出せないかもしれないですけど、こういう風にして、やっっていくしかないのかと言う風には思っています。」

○部会長

「ありがとうございます。ここでは、ソフト面という表現、そういうのが地域としては、公民館長もいますが、地域の気持ちをまとめる人なりが居て、やっっていくか。小来川の自治会協議会というものがあって、6自治会がまとまって、色々やっている訳ですけども、そういうものをまとめて行く力が必要なかもしれないですよ。西尾先生から何かありましたら、お願いいたします。」

○西尾アドバイザー

「こういった会合が日光市では初めて行われたと言うお話がありましたけれども、例えば地区センターをどうして行こうかと言う単体の施設のあり方なんかを検討する会議と言うのは良くあるとは思いますが、地区と言う単位で、色々な施設を総合的に考えてどうして行こうかと言うことを住民の方と一緒にやっっていくと言うのは非常に珍しいと思います。個々の施設をどうしていかと言うよりは、この会議の最初の頃からまちとして、この小来川地区をどうしていききたいかということから、議論を始めたという事で、ここに対象施設が書いてありますけれども、確か、ふれあいの郷と言うのは当初対象施設に入っていなかったと思うのですが、これからのまちのことを考えた時に、やはりこのふれあいの郷も一緒に考えた方が良いのではないかと、皆さんからの意見で対象施設に加わって行って、検討に上がっていったと言う経緯があったかと思えます。非常に素晴らしい話し合いが毎回されていたなということをお聞きしながら感じていました。学校の捉え方もこの提言書のなかに書いてありましたけれども、子供達を地区全体で守り育てる場だと言う風に学校を捉え直して、そういう子どもたちを中心にしながら、皆さん交流の場をつくっていくと言うことは非常に素晴らしい考え方だなと思います。今日の議論の中でもっと具体的な事例を知りたいと言うご意見があったり、あるいはもう予算も決まっているのではと言うご意見とか、それと言うのは予算とかが決まっているのであれば、それを教えてもらってその範囲のなかで、自分達で考えるよと言う、自分達でやる、自分達で事例を勉強してどうしたいかと言うのを考えて行くよと言う、自分達で何とかしたいと言う思いが非常にこの会議出たなと感じまして、これは凄く素晴らしいことだと思います。通常ですと、こういう提言があると、後は市で引き取って市で考えると言うステップになりがちなんですけれども、そうではなく、せっかく小来川地区の皆さんがそうやって自分達で考えて何とかしていきたいと言う思いが凄く強いと思いますので、後は全部市で考えるよと言うのではなくて、これから市が具体化して、実行計画を作って行くこれからの段階の中でも出来るだけ住民の方の意見とか、住民の方がこういう風になりたいと言う思いをその計画の中に反映させていくと言うやり方を工夫していただくと良いのかなと思います。先程あった説明会を1回やって終わりと言うことではなくて、何等か市側と地区の住民の方とキャッチボールをしながら、計画を具体化していくと言うやり方を工夫できると良いかなと思います。あと、先程成功事例と言う話がありましたけれども、私が少しご紹介しかけ

議事内容

た志木市の事例と言うのは、学校を複合化する検討している段階から出来た後、その施設を管理運営していくかと言う、管理運営の話と一緒にしていたんですね。そこには、地区の方も入って行って、施設もどういう施設にして、どうやって管理運営していくかということをして市に任せると言うことではなくて、地区の人達がこういう使い方をしたい、こういう使い方をするのであれば、私達がこう関わっていくよと言うことまでも含めて計画づくりをしていくかと言う事例が、どちらかと言えば成功事例に多いのではないかと思いますので、せっかくこの素晴らしい、皆さん自分達で何とかしていきたいと言う住民の方々の思いとか力を計画とか、施設をどうやって使っていくのかという所に活かしていくような計画づくりに、これから繋げていけると良いのではないかと思います。」

○部会長

「ありがとうございました。まとめ的なお話しになってきますけれども、やはり、施設を使っていくのは地域の住民だと思いますので、そういったこと、また新しい事例としていただければと思います。」

○事務局

「私も今年度になってから皆さまと関わらせていただきまして、公共施設の適正化と言う切り口で皆様とお話しさせていただきましたが、会を重ねるに連れて公共施設の適正化の枠を超えて、小来川と言う地区をどうまちづくりしていくのかと言う視点の議論であったかなと言う風に感じております。そのような意味で、今回提言書の案を出させていただきましたが、皆さまの意見を元に入れさせていただいたところですが、事務局から一つご提案と言う形になるかと思いますが、一番最初の強み、弱みのところで、林業の衰退と言うような言葉も出てきまして、そこは弱みの部分として挙がってきていたように、この提言書の所にも記載がしてあるかと思えます。実は先日、私どもの方で、公共と民間が協力して色々な事業をやってみようと言うような取組が全国的にも進んでおりまして、そういった場の会議に出席した際に林業を活用、使って地元を盛り上げていこうと言う取組を積極的に進めているような民間企業の方と少しお話しをする機会なんかもございました。小来川地区と言うのは、財産区もあつたり、林業と言う部分と言うのは主要なと言いますか、重要なところのキーワードの一つなかなと思っております。実は事務局として、その会議で話をする機会があった時に、地元の熱意ですとか、そういった所が、林業をどうにかできると言うような視点で話を聞いていたなかで、日光市内林業を主とする地区がいっぱいありますけれども、こちらでこういう会議をやっているせいか、この話を小来川の方達にしたら面白いのではないかと事務局内で話が出る位、林業と言う部分も可能性としてあろうかなと思ったなかで、例えば、最後の交流や地区活性化のための公共施設活用と言う(2)の所に、少し林業の活性化の要素も文言として入れることも、地区外との交流とかそういう所に並べることになるかと思いますが、その辺りも少し、弱みとして捉えるのではなく、前向きに活用していくような民間企業も出てきていることも踏まえて、そういったところも文言として入れてはどうかと言うご提案を最後にさせていただきたいと思いますが、この点について少しご意見いただければと思います。」

○部会長

「どうですか、今の提案について。」

林業と言う昔の狭い林業ではなくて、森林とか環境を使ってとか、あるいは林業体験、森林体験とかと言うものもありますよね。」

○事務局

「少し具体的にお話ししますと、山から木を切ってきて製材しました、その製材したものを、ある特定の機械を使って加工して例えば素人でも加工品が造れる、その加工品と言うのが、公園に置くベンチだったりとか、ログハウス風のものであつたり、子供たちがその木を組んで、そう言ったものを造れるとか、そういったものを手掛けてというような事業者です。取組としては非常に面白い取組をやっていると言うニュアンスで少し話を聞いてきたところだったので、それを実際やりましょうと言う具体的なお話しではなくて、そういった取り組みを進めているような企業も出てきているので、今後の林業の多様性と言うものも含みで提言書のなかに入れる

議事内容

ことも可能かなと思ったものですがから、文言としてだけでも入れておくことも良いかなと思ったので、ご提案させていただいた次第でございます。」

○部会員 6

「私も一つ気にしているところがあったんですが、林業は是非活性化のところに入れていただければと思っているのですが、どこかの村で役場に火力発電所をつくりました。山が荒れ放題だったのが、おじいさん、おばあさんが間伐材を持ってきてくれれば、200円とか300円とかで買い取ってくれる。その村は電気代が無料です。そういう風にしたら人が増え始めました。どこの町か村か忘れましたが、もの凄く成功した事例なのではないかと。山の間伐材がきれいになれば、災害も減ります。数年前に大雪で倒れてしまった木がそのままになっていて、ここで大雨が降ったらいつ災害が起こるか非常に危険な状態になっているのが、現状です。そういった施設なんかも、市と民間でうまく出来たら。自分で始めようと思っていたが、資金がまだ貯まっていないので出来ないが、そういった事例もあると思いますので、是非前向きに文言の方に入れていただけたら嬉しいと思います。」

○部会長

「少し専門的な話も出てきましたが。スポンサーがうまくつくといいですけど。オーストラリア辺り行くとかなり発電だけではなくて、熱を利用して、地域の冷暖房をやって、それがあまり大きくない地域でやっている。そういうのが出来ると良いなと思いますが、なかなか先立つものが難しいと、今、林業関係者は縮こまってしまっているような状態ですが。その他どうでしょうか。」

○部会員 8

「私は建築の方やっているのですが、仕事柄そういう話を聞くのですが、先日知人に話を聞いたなかで、地場の木材を使って、そういった建物を造ると国の方からもかなりの助成金が出るというそういったシステムが出来上がって、それが活用されれば、地元も盛り上がるのではないかと、言う話は聞いたのですが、そういう話が本当なのか。そういうのが現実になるのかなと言うのが。」

○事務局

「今の答えになるかどうか分からないのですが、森林環境譲与税の絡みで新たな取組みが始まるなかの一つなんではなかね。」

○部会員 8

「森林環境譲与税と言っていましたね。」

○事務局

「だとすると、森林環境譲与税という新しい財源が国と県の方から市の方にお金に来て、色んな取組がこれから新しく始まるのだと思うので、その中の一つにもしかするとあるのかもしれないのですが。先日庁内の会議でもそのような話が上がっていて、全容はちょっと把握していないのですが。」

○部会員 8

「そうすると、地元の材料を使えば、一つの建築面積あたりに対して1千万円以上の補助金が国から助成金として出るような話を聞いたのだが。そうすると、林業をやっている地域なんかは、強みも出てくるのではないかと、思って聞いたので。それが本当かどうかと言うのが疑問だったので。」

○部会長

「それは、課税されるのは4年後位なんですけど、譲与税と言う形で先取りして、実は今年から使えることで、多分2週間前位の新聞に載ったと思うのですが。日光市でいくらと言う風に出ている、栃木県内で一番なんですけど、ただ、そのお金をどういう風を使うかと言うのは市に任せ

議事内容

ているので、市でこれから検討するとのことようです。税そのものは非常に幅広く、森林の整備から木を使う所まで含まれているのですが、市がどういう風に行うかというところが、まだ日光市では決まっています。基本的には管理が行き届かない森林を整備して、更に消費が落ち込んでいる木材をどんどん使ってもらおうというのが基本的な考えなんですよね。どういう形で使う所に今言ったような形で使うのかは市の方で決まっていないという状況のようです。交付税と同じで市にいくらという形で来るんですよね。それは補助金みたく一年とかではなくて、基金として残しておけるんですよね。鹿沼はもう協議会のようなものを作って、山の整備を始めるとか新聞に載っていたようなんですけれども。」

○部会員 2

「提言書の中に林業関係のことを入れて行くと言うのは良い事だと思います。元々小来川地域と言うのは林業で栄えてきた村ですからね。それが外国産材におされて、生活が成り立たなくなったと言う背景があるので、今後、森林環境譲与税云々のある程度の補助をもらいながら、それが事業に結びつくのであれば、これは提言の中には是非入れておくべきだと思います。」

○部会長

「では、そういうことで、林業の活性化なり、そういった文言を盛り込むという事で。皆さん、昔から非常に林業が多かった時代から落差があるので、多分出なかったのではないかと、自分もそういう話は会議のなかで言わなかったもので、そういったことが皆さんから出たのは嬉しいなと思います。」

大体ご意見は出たでしょうかね。それでは、皆さんの意見の整理、取りまとめという所は以上という事で、色々出た意見を今後反映して、市の方で検討していただければと思います。では、この後は進行の方は事務局にお願いしたいと思います。」

○事務局

「ありがとうございました。この後、本日いただいた意見等を踏まえて提言書の方修正等加えまして、部会長から市長に提言書の提出と言う場面の前に、修正内容等は部会員の皆様にお知らせをさせていただきますので、よろしくお願いたします。」

では、以上を持ちまして第五回小来川地区内公共施設適正化検討専門部会を終了させていただきます。」

以上